

2. 透析医療

「しっかり食べしっかり治療する」がモットー
長時間透析、頻回透析にも積極的に対応

岸田クリニックのスタッフは、理事長、会長（非常勤）、外来担当の常勤勤務医1名、看護師17名（うちDLN慢性腎臓病療養指導看護師2名）、臨床工学技士5名（うち放射線技師兼務1名）、看護助手3名、事務8名（うち医療材料などの発注・管理を行うSPD専任1名）の総勢36名。SPDを配置しているのは、患者それぞれの適合性に沿った透析を追求すべく、ダイアライザーなどを1本単位で注文管理しているためだ。

透析ベッドは37床（うち個室2床）で、透析患者数は120人前後で推移している。透析スケジュールは、月水金、火木土のそれぞれ2クールだ。このスケジュールに合わせて看護師も月水金、火木土の2つのチームに完全に分かれて勤務し、さらに患者担当制とすることで、患者との親密度を高め、ちょっとした変化にも気づけるようにしている点は特徴的だ。

透析医療に関しては、「しっかり食べしっかり治療する」をモットーとし、患者それぞれの状態に合わせてダイアライザーなど資材を選び、透析時間、血液流量などを設定している。血液透析以外にも、オンラインHDF、オフラインHDF、i-HDF、LDLアフェレーシス、二重膜濾過血漿分離交換法、関節リウマチや潰瘍性大腸炎に対するCAP療法なども行っている。また、患者の希望に応じて長時間透析や頻回透析にも積極的に対応。旅行透析も随時受け入れている。

北摂地域の透析医療の基幹施設である社会医療法人愛仁会井上病院を中心とした骨やフットケアなどに関する定期的な透析連絡会の開催など、他施設とともに地域連携にも取り組んでいる。



透析室では透析条件などを患者自身がいつでも確認できるパネル対面式にベッドを配置することで患者の治療意識を高めている



透析中に回診を行う岸田直博会長



多量のダイアライザーは箱単位でなく、1本単位で管理されている